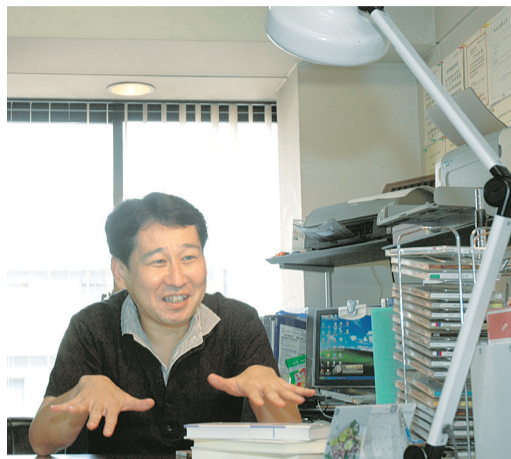


証券市場における理論・実証研究

経済・三井 秀俊准教授

デリバティブ(金融派生商品)という言葉に多くのデータを駆使する。本国民は押しなべて警戒心を抱いていた。だが、先物・悪玉論はもう昔の話。

日本に導入されて20、30年が経ち、デリバティブが金もうけだけの手段ではなく、ヘッジ(リスクを抑えるための手段)として認められている。日本にも多くの金融データが蓄積されてきており、近年の「金融解禁」に対応できる能力が備わっている。三井准教授の専門の金融証券市場に



研究室で「金融で日本を再生させたい」と語る

おける実証研究でも、多の一種であるオプションデリバティブが存在する。市場の実証研究を行って、研究対象の幅は広いが、いたが、最近ではほとんどはデリバティブの金融商品に対してである。

「経済学部では理論や制度を研究する人は多いが、私は実際に理論を現実の市場に対してどのよう適用し分析できるかを研究している。金融データをを用いて、理論や制度が現実の市場に合っているかどうか計量分析を行っている」

金融で日本再生する人材を

幅広い金融データを駆使

デリバティブや外国為替レートが対象

場を不安定にするのではなく、安定させる効果があることが分かってきた。車と同じで使い方を間違えなければ事故を起こすことはない。ルールを守った使い方です」

「最近の研究では先物・オプションの導入は市場を不安定にするのではなく、安定させる効果があることが分かってきた。車と同じで使い方を間違えなければ事故を起こすことはない。ルールを守った使い方です」

「金融工学」は資産運用や取引、リスクヘッジ、そのためのリスク管理も重要なトピックスである。この道に進むきっかけとなった。



英国のイングランド銀行博物館の前で

三井 秀俊(みつい) 教授となる。千葉大(ひでとし) 平成7年 一橋大、筑波大などの東京立大(現・首都大) 大学院で非常勤講師を勤め、20年から埼玉大大学院客員准教授。統計学、経済政策専攻博士課程単位取得満期退学。に「オプション価格の博士(経済学)。14年か計量分析」趣味は歴史から本学経済学部専任講師に関する読書、旅行。埼玉大18年助教(19年准) 玉県出身。38歳。

プロフィール

都市銀行に6人、地方銀行に3人、大手不動産1人、分野であろう。一流メーカーに5人が内定している。金融の最先線に送り込む教員は徐々に増えている。教授は「金融で日本を再生させたい」という思いがあり、そのための人材育成に力を注いでいるからだ。経の差は広がる」

テレビドラマ表現のメッセーを分析

芸術・中町 綾子准教授

日本ではテレビ放送が始まったのは1953年。然と研究対象としてとらやと半世紀を超えたばかりだ。「その歴史の7割方は私の人生に相当し、テレビドラマ。主に恋愛ドラマ、メロドラマ、韓国



新しくなった研究室にはテレビや芸能情報誌もズラリと並ぶ

あるものだったので、自らドラマを軸に研究に取り組んでいる。メロドラマは、ルネサンス期にイタリアに起こった劇。やがて18世紀のフランスで古典主義を脱し、大衆化される。「テレビドラマでもメロドラマは重要なジャンルのひとつ」と、中町准教授は言う。

時代の「いま」を分析

質の高さに憧れのまなざし

最近、その表現には変化が見られる。「ふだん体験できない世界。日常とは少しかけ離れた、いわば非日常的な表現を築き、現実にはありえない表しむようになった。その中で自分を見つめ直し、

韓国ドラマによく見受けられる。一方、日本のテレビドラマはリアリズムを重視してきた。そのため誇張された描写は少なく、現実にはありえない表しむようになった。その

「冬ソナ」は象徴的な存在。宿命に翻弄されながらも「永遠の愛」を成就させる、という典型的なメロドラマだ。まず、中町准教授は年齢層から分析す



夏休みを利用して行われたゼミ合宿

「冬ソナ」には、日本の恋愛ドラマが失った感性も描かれる。流行の言葉で言えば「品格」のよなものでしょうか。ところで、最近の日本のドラマ界は元気がない。「アジアではパイオニア的存在。質の高さは憧れのまなざしで見られる。アジア圏からの留学生の関心も高く、日本ドラマの素晴らしさを共有の「いま」を鋭く突いて

中町 綾子(なかも) 組評論家、審査員として活躍。平成6年芸術学部放送学科卒、8年大学院芸術学研究科修了。芸術学部助手、専任講師、助教を経て、19年准教授。テレビ番組「プロファイル」著書に「ニッポンのテレビドラマ21」の巻末に「中町綾子」の名を記す。石川県出身。37歳。

プロフィール